

アルパック ニュースレター



城崎の柳

アルパック ニュースレター もくじ 1992年11月1日

- アルパック名古屋10年の感謝状..... 2
- 城崎外湯と新地蔵湯..... 5
- 加悦町 絹のまちにふくらむ夢..... 7
- 市バスがあってよかった！..... 9
- 第2回日米草の根交流対外大会(社)大会に参加して..... 10
- うまいもの通信②..... 11
- 新刊旧刊書評紹介..... 13
- まちかど..... 14

NO. **56**

アルパック名古屋 10年の感謝状

尾関 利勝

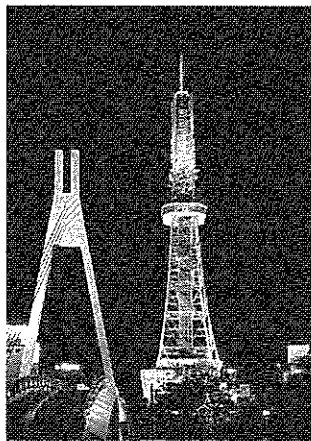
おかげ様でアルパック名古屋も10年目になりました。ずっと昔から名古屋で根を生やしているような顔をしています。まだ10年の若木です。若木なりに地域に根を張ることが出来たのは、応援をしてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。この機会に、今日までの略譜を振り返ってみたいと思います。

ハートフルなまちづくり人間を育てています

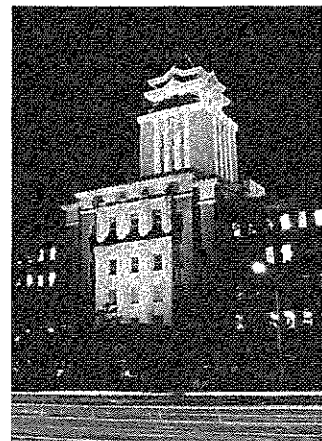
京都駅南口再開発・アバンティビル（昭和46年より尾関担当）の完成直前、同57年12月に事務所登録、翌58年6月から3名で本格的に業務を開始しました。以来10年、所員も14名になり、工学・デザイン系6、文科系8、女性5、男性9と、この種の職業としては文化系と女性が多い事務所です。経験の少ない所員が多いのですが、ハートフルなまちづくり人間をめざして努力中です。今後ともご意向にお答えできるよう精進して参ります。当分はまちづくり人間のインキュベータとしてご理解いただきたいと思います。



久屋大通



ライトアップ



まちづくりファクトリーとネットワーク・サロンとしての事務所

事務所は名古屋の顔・久屋大通（百メートル道路）東隣、大津通と名古屋駅から東に延びる桜通りとの交差点から北に上った所です。役所にも繁華街にも近い便利な所です。最近少し手狭になったので、アルパック都市交流サロンとして外部の方にも開放しております会議室を、書類に埋もれた不夜城の作業スペースと分離、専用にしました。業務の他、NAGOYA金しゃち連や名古屋住環境会議、JCを中心とした夢いちば企画委員会などアフター5サロンとしても活用しています。近くにお越しの節はお立ち寄り下さい。おいしい名古屋の水で沸かしたお茶でおむかえします。

都市景観と再開発からスタート

事務所開設は昭和54年に受託した名古屋市都市景観基礎調査の担当職員のお誘いが契機でした。たまたま私がアルパックで景観を中心的に担当し、名古屋出身だったことが重なり開設担当ととなりました。折しも岐阜駅

前問屋街再整備構想を受けており、景観と再開発がスタートの仕事になりました。自ら地元でもある久屋大通都市景観実施計画では住民の方々や市職員と一緒にアーバンデザインと現景観のひな形をつくり、都市景観基本計画では審議会の先生や市職員の方々と夜を徹して都市論に熱中、計画方法論が未確立であった景観計画のプロトタイプをまとめ、以後この時の名古屋まちデータを活かし、港や運河をはじめ各地の市街地整備構想に携わりました。エポックは世界デザイン博主要会場周辺都市環境照明計画（名古屋駅と栄を含む）を担当し、会場計画を担当された建築家・デザイナー、行政、施工担当者とともに照明学会より日本照明賞を頂戴したことです。

初動期の地元活動援助が多い再開発

アルパック名古屋の再開発に関する業務は初動期の地元援助が多く、各地で事業化に向けて地元と行政一体に七転八倒しています。豊田市桜町では制度創設直後の優良再開発を担当、住民・市・プランナー三位一体で共同事業を進め、建基法86条一団地認定を受け、保存と再生の複合、土地の権利移動も保留床もない自前型再開発を住宅・都市整備公団の制度を活用して3年間で実現、日ごろ考えていた地方中小都市の一般市街地で生活対応型の再開発ができることを実証しました。商店街振興では、（社）地域問題研究所とともに愛知、三重県下の商店街近代化等を担当し、

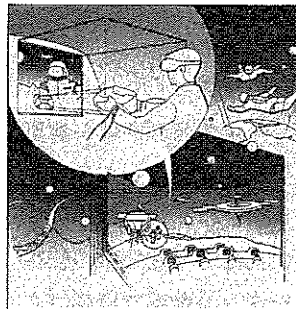
まちづくりのため元気の出る活動を訴えてきました。名古屋市築地の港橋再開発（行政施行）では大半がお年寄りの借家人の勉強会を足かけ4年担当、再開発を契機に複数の商店街や町内会、個人、企業を含むまちづくり組織・ポータウン21まちづくりの会結成と新しい地域イベント・宝島共和国をお手伝いしました。

プランナーからシンクタンクへ

地域型活動はあらゆる地域課題への対応が求められるため、最近ではシンクタンク業務が増えています。開発経営計画の蓄積で依頼された都市交通経営や開発手法調査の経験は広域高速交通政策へ業務を拡げ、情報通信基盤と都市構造を模索したインテリジェントシティ、映像時代を先駆けるハイビジョンシティ調査から、ニューメディア分野のデータとネットワークができました。この経験から（財）中部産業活性化センターの中部地域産業活性化ビジョンを担当、多くの学識者のご指導で先端技術分野の理解を深め、地域の新たなテーマ、次世代産業技術やマイクロマシン、ヴァーチャルリアリティの他、産業廃棄物対策等の研究会事務局を担当しています。また（財）トヨタ財団による産業記念施設調査では地域の産業技術と企業発展史を学び、このデータとネットワークから、研究者や行政の方とともに名古屋地域における近代産業技術博物館の自主提案を行いました。



宝島共和国のフェスティバル



ヴァーチャルリアリティ

人工現実感の技術は人間の感覚能力拡大の道具とするともに人間を人工環境に置き、今まで探り明かせなかった人間の感覚の新しい側面の発見に資する。
人工現実感研究所は、技術の基礎及び応用両面の高度な研究を行なう機関とする。
デモンストレーション施設は、研究の成果を確立するとともに人工現実感技術の普及への普及をめざすものである。

町の町医者からまちづくり中規模専門医へ

地方コンサルタントやシンクタンクは町医者と似た業態であることから、開設当初以来町の町医者をお自画像として来ました。カルテとなる地域データ収集は自らの責務と自覚、景観計画では例えば写真で1万枚以上のデータを集め、緑化推進計画でも緑視の新しい視点から地域データ収集を計画の基礎として重視しました。このデータから、その後高齢者や福祉のための環境整備、名古屋市新基本計画土地利用構想などをお手伝いさせて頂くことになりました。景観計画や緑化推進計画では東京・大阪・九州の大都市地域を始め近郊市町村の行政・コンサルタントからご相談を受け、地方の業務を通して多少なりとも全国レベルの仕事に近づけたかなと自負しています。この間、町の町医者にこだわり、名古屋から30Km・30分を行動範囲の限界として来ましたが、足助町のお手伝いや長野県八坂村おこしのボランティアでプランナーの無医村地域に気付き、最近では岐阜県明宝村おこしをお手伝いしています。ここで求められた村ぐるみ村おこしを町医者感覚で進めるため、村民交流を兼ねた宿泊型ワークショップ方式を考案、アルパックのネットワークを利用して都市民にも参加してもらい、顔の見える生きた計画づくりに努力してきました。今まちづくりの中規模専門医が自画像です。

行動するプランナー、ドゥ・タントをめざして

アルパック京都におりました昭和40年代後半から国土と人口の大都市化の中で、都市民のための故郷化を都市のまちづくりのテーマと考え、その一貫として居住環境整備が都市計画プランナーの重要任務と自覚してきました。住宅・宅地供給計画では、成熟期にある住宅・都市整備公園の高蔵寺や愛知県の桃花台の他、新たなニュータウン計画で環境づく

りや地区計画をお手伝いし、地域型住宅づくりとして岐阜県ウッドタウン構想や住まいの文化拠点づくりのための愛知県ハウジングマーケット構想の他、折からの地価高騰の中で策定された総合土地対策要綱にもとづく住宅・宅地供給事業推進調査などを担当しました。

インナーシティでは既成市街地の居住環境再生をテーマとした名古屋市の調査を学識者のご指導を得て進めています。建設省の住宅建設事業調査との関連で行った木造狭小持家密集地区の調査をきっかけに、計画の実現性への意図から従来の住民と行政と言う2元的発想を脱皮し、住宅生産者の視点を加えて地場工務店に着目、これらの方々の参加を呼びかけたまちづくりの工務店研究会を続けています。高齢化や跡継ぎ問題、メーカー住宅化の中で地域住環境のメンテナンスが不可能になるのも間近ではないかと危機を感じます。

このような地域参加型まちづくりを通して、世田谷区方式を典型とする行政と住民一体のまちづくりへの実験、更には激変した都市コミュニティ再生のための仕組みづくりが、今まちづくりの現代的課題と考えています。そこでのプランナーの仕事はペーパーワークから脱皮し、事態を動かしていく仕掛人であることが不可欠と考え、行動するコンサルタントと言う意味でドゥ・タントと言う勝手な和製英語を自画像に加えしました。

手前勝手の自画自賛ながら、以上のような仕事の体験をさせて頂いたのは、ひとえにアルパックの心意気をご理解し、応援して下さった皆様方のおかげと感謝しております。本来であれば直接お目にかかりお礼を申し上げるべきところ、大変失礼ながら紙面でお礼申し上げる次第です。

(名古屋事務所 おせき としかつ)

城崎外湯と新地蔵湯

前田 恭宏

城崎温泉の「新地蔵湯」が完成しました。

西山卯三先生、三輪会長、我々設計担当者も出席させていただき、晴天の9月1日竣工式が行われました。午後からは一般に公開され、町民の方々、多数の観光客の方々に利用していただいております。

城崎の湯は、約1500年の歴史をもち、古くは湯治場として親しまれ、最近では7つの外湯をまわる「七湯めぐり」として楽しまれております。

外湯の中の地蔵湯は大正9年に現在の地に新築され、大正14年の北但大震災により多大な被害を受けましたが、大正15年には復興され、昭和7年に町民湯と家族湯が続けて完成

し「旧地蔵湯」の原型となりました。戦後の旅行ブームによる観光客の増加により、各外湯は次々と改装、新装されていきました。

昭和30年 「柳湯」

昭和31年 「一の湯」

昭和32年 「御所の湯」「地蔵湯」

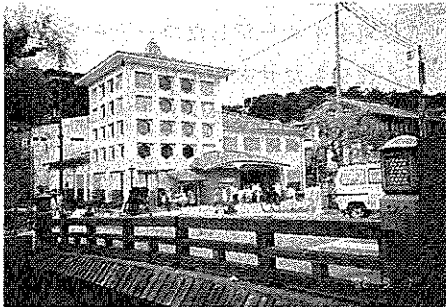
昭和35年 「鴻の湯」

昭和36年 「まんだら湯」

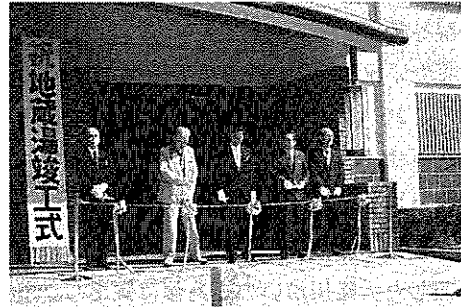
こうした流れのなかで地域の方々の要望により地蔵湯の分湯として「町民湯・さとの湯」が昭和37年につくられ、町民の方々に親しまれてきました。

外湯整備計画

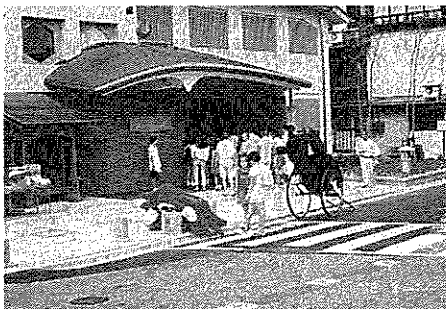
昭和30年代に改装された外湯も建物、設備の両面の老朽化が目立ち始めたおり、外湯の



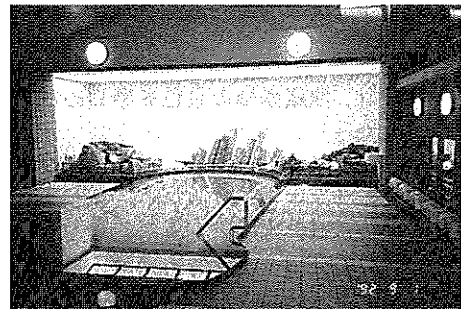
外観



竣工式



玄関



浴槽

より一層の活用を図るため、平成元年に「城崎町外湯活用総合基本構想」が策定され、数々の提案がなされました。

その中の、①老朽化した設備や浴場としての機能面での整備、②有機的な空間利用、③外湯の個性化、④外湯の誘導的なネットワークの強化を実現するものとして、昨年3月に「新鴻の湯」が完成し、今回は「旧地蔵湯」と「さとの湯」を統合した「新地蔵湯」として完成しました。

位置

敷地は城崎駅の駅前通りを北へ300m、大谿川にかかる地蔵湯橋のたもとにあり、駅前通りの正面、湯島の中心に位置し、その立地性から町のランドマーク、外湯のシンボルとしての役割を期待されているところです。

配置計画

大谿川、地蔵湯橋に面してポケットパークを設け、駅前通りからの景観の懐を深くするとともに、歩行者のたまりを設け、観光客の動線を誘導するよう配慮しました。

また、ポケットパークの一面には地蔵尊が安置され、地蔵盆には子供達の賑わいの場ともなります。

内部計画

玄関は下足コーナーと共にポケットパークに面した大谿川沿いの道路側に張出し、屋根形状は唐破風をモチーフとしました。

ロビーは地蔵湯橋寄りとし、2階への動線の交差を防ぐとともに、窓を大きくとり内部から大谿川、地蔵湯橋の景色を楽しめることとしました。

内部の空間は統合した目的でもある「ゆったりとした空間」「設備の充実」をめざし特に脱衣室、浴室はゆっくりと湯を味わえるよう広くとり、内装にも配慮しました。

浴室は城崎式の深い浴槽を継承するととも

に、シャワー付きカラン、ジェットノズルの設置、外湯としては初めての打たせ湯を取り入れるなど設備面での充実をはかりました。また、「玄武洞」「山陰の山」「日本海の雪・砂浜」をイメージした浴室内装で、いままでにない外湯となりました。

新地蔵湯の特徴の一つは2階に設けたラウンジで、天井を高くとり、約30畳の広さは、湯上がりにくつろぐ場として、また町民の方々のふれあいの場、交流の場にも利用していただけたと思います。

仕上げは、自然材料を意識し、木質天井、木質壁、和紙クロス、フローリングを多く用いました。

外部・外観計画

外観は西山先生から「外湯は個々に特徴あるデザインとするべき」との示唆を頂き、先生からのデザインスケッチをもとに検討し、設計をすすめました。

地蔵湯橋に面して3層分の高さを持つ大きな和風灯籠をイメージしたコーナーをとり、シンボル性をもたせました。

外装は真壁和風を基本とし、天然記念物の玄武岩の六角形、木製格子、瓦、銅板（緑青）の組み合わせでまとめました。

統合され30年の歴史を閉じることとなった「さとの湯」の跡地に、さとの湯で使用されていた石材を利用した記念碑を建て名を留めることとしました。

最後に外湯の在り方を含め、特に外観デザイン面で指導していただいた西山先生をはじめ、数回の特別委員会のなかで経験に裏打ちされた貴重な御意見をいただいた、湯島財産区議会建設特別委員会の委員の方々、難しい設計、途中での設計変更に対応して頂いた現場の方々に感謝いたします。

(大阪事務所 まえだ やすひろ)

～泰さんのあんな京都こんな京都⑩～
加悦町 絹のまちにふくらむ夢

山田 泰造

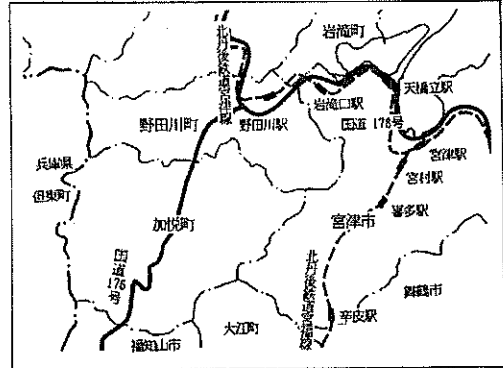
名勝天橋立を過ぎると、絹織物産地として著名な岩滝・野田川・加悦町が連なり、兵庫県に隣接する加悦町(59.05km², 8,416人)は中心街に「縮緬通」と呼ばれる織屋の家並が見られ、往時の盛況と、伝統を物語っています。最近「絹を食べる」という報道が各方面から注目されており、今回はこのニュースを追っての加悦町からの報告です。

絹の食品化論文との出会い

京都府北部丹後地方は享保年間(1715年)以降ちりめん産地として全国に名を馳せ、加悦町は特に高級品産地として栄えてきました。しかし、丹後ちりめんは昭和48年の生産1000万反をピークとして、最近では260万反と生産量が激減し、前途はなお多難です。

昭和63年農林課長に就任した勢簇毅氏(現産業課長)は地元産品(山菜・漬物等)では地域の振興に多くは望めず、是非全国に通用する産物を発掘したいと日夜頭を痛めていました。

平成2年2月、東京農工大学教授平林潔先生の絹の食品化に関する論文を偶然発見し、この論文こそ長年求めてきた新産物に通ずる物であり、これぞ天からの啓示と、西原重一町長と相談の上、6月直接先生の門を叩きました。先生は「既に20人以上の人が来ましたが、どこまでが本気か分からない。特に工業化には原料問題が必須条件だが、核心にふれる答がない。」即座に課長は丹後織物の現状と安価で豊富な原料絹糸くずを説明し、先生の現地視察を熱望しました。先生も数年にわたる絹食品化の研究を実証する機会を求めていたので、7月町を訪れ、8月には学生4人

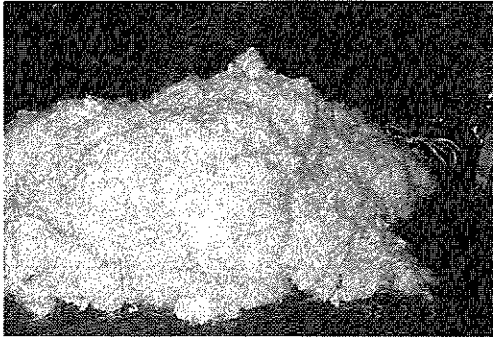


と共に加水分解、脱塩、凍結乾燥等の器具を携え、町の施設を利用して、現地実験を始めました。8月16日町長は当地の絹糸くずを使って作り出された白い粉末を示しながら記者会見を行い「食べられる絹」の出現を発表し、直ちに製品化に協力する食品会社に白い粉末「かやシルクパウダー」の生産を依頼しました。

3年3月、パウダーを混入した絹イメージ商品、絹飴・絹煎餅等々が発売され、特にパウダーの利用法については全国から様々な問い合わせや、購入希望がよせられつつあります。町は既存の第三セクター「加悦総合振興KK」を窓口として年間10t以上の販売を目標とし、地域の新しい産業に成長する事を念願しています。

「厄介な廃棄物」から「有用な資源」へ

現在丹後地方では年間700tの絹糸を消費し、約30tの糸くずが生まれます。この糸くずを従来は焼却していましたが、焼却炉の中で黒い塊となり、炉にこびりつき、取り除きに手



絹糸くず



絹を使った製品

間どる厄介な廃棄物でした。昭和54年町は当時の自治体として始めて焼却残渣が少なく、公害の発生しない「流動床式焼却炉」を導入し、厄介な廃棄物問題を解消しました。一方先生は分子量30万以上もある絹蛋白が人体に吸収される過程を研究し、塩酸による加水分解^{*1)}・中和・脱塩・濃縮・乾燥・粉末化という工程で蛋白質をアミノ酸やペプチッド^{*2)}に分解して消化されやすい形にし、ラットに与え消化率を調べる動物実験を繰り返し、90%以上消化される事を確認しました。「厄介な廃棄物」は栄養価の高いアミノ酸の白い粉末の「有用な資源」となったのです。

*1) 加水分解…化合物が水の分子と反応して二種類以上の化合物を作る分解反応。反応は酸や塩基が触媒となることが多い。

*2) ペプチッド…二種類以上のアミノ酸が結合し、縮合してできた化合物。

絹蛋白質の新素材としての利用法

絹の衣料以外の利用が注目されたのは絹糸が絹フィブロインという蛋白質からなり、①加工容易で溶液・粉末・膜と自由に形を変え、水との溶解度、酸素や水蒸気の透過性・吸湿性に優れ、②加水分解によりアミノ酸等に分解され、アミノ酸を分離・精製しての利用可能、という2つの特性が新素材として重

視されだしたからです。

①の特性からの利用法…人工肺用膜、人工皮膚、コンタクトレンズ、化粧品混入、フィルム等があり、古来絹の下着を身につけていると健康に良いといわれていますが、人間の皮膚と絹とがなじみ易いからでしょう。

②の特性からの利用法…絹フィブロインの組成はグリシン45%、アラニン30%、チロシン6%等で、グリシンは高血圧・脳卒中等に、アラニンは肝臓・二日酔に、チロシンはパーキンソン病・痴呆症に有効とされています。

以上絹蛋白質の新しい利用は私共の生活・医療に深い関連があり、非常に広い分野で研究が進められており、今後どのような様な新製品が開発されるか興味深いものがあります。

従来絹織物業者から厄介な廃棄物と見なされていた絹糸くずが栄養価の高いアミノ酸の粉末として、即ち有用な資源として加悦町で生産され、非常に広い分野から注目されている事は、単に加悦町の人々だけでなく丹後全体の人々に大きな夢をもたらしました。丹後は300年間絹と共に生きてきましたが、今回の絹を基盤とした新しい産業を見出した事により、人々は益々絹との共存関係を深めて行く事でしょう。(京都事務所 やまだ たいぞう)

市バスがあつてよかった！ 公共交通と公共施設

三輪 泰司

8月19日、高槻市公営企業審議会は、江村利雄市長へ、次期5ヶ年計画へ向けて「高槻市自動車運送事業について」答申しました。危機と闘った10年

高槻市の市営バスは昭和29年に開業し、40年代の人口急増期には通勤の足として威力を発揮しましたが、50年代に入ると人口増加は穏やかになり、代わってモータリゼーションの波が襲い、バス利用者は、昭和50年の年間3,014万人をピークに減少を続けました。

昭和56年末に不良債務10億7,000万円という未曾有の経営危機を打開すべく、公営企業審議会は議論を重ね「経営健全化の前提としての不良債務の早期解消・企業努力による経営体質の維新とサービスの向上・経営環境改善のための総合施策の推進」の3つを柱とする答申を出し、58年度に自主再建計画を策定して取り組み、目標より2年早く、60年度に不良債務の解消に成功しました。

輸送人員は、昭和60年の2,407万人を底に住宅地開発と平安女学院短期大学の移転開校などに対処する路線の新設・整備に努め、平成3年度には2,579万人まで回復に転じました。阪急の連続立体化など交通環境の整備も着実に進んできました。しかし、今度は消費税が掛かってきました。年間7,000万円の税負担は、

職員300人の中小企業並みの経営を圧迫します。現在の交通事業は、人件費の上昇を吸収できるようなテンポで収益は増えません。運賃値上げをお願いしなくてはならなくなりました。ほんとうに市民の“足”になっているか

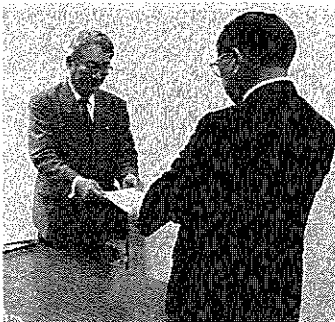
バス事業は、ホテル・旅館業などのサービス業と同様、その商品とは或る時間の或る空間の提供で、在庫が全くないビジネスです。お客さんに乗って頂いて始めて商売になります。この10年、“市場志向型へ”をスローガンに経営刷新に努め、市民サービスの先頭に立つ市バスの評判はととも良くなりました。

しかし、審議会でも議論になりましたが、バス側だけではどうにもならないのです。

近頃どこの都市でも、文化施設やスポーツ施設を、全市的機能の地域分担とコミュニティづくりの核として市内各地区に分散してつくります。ところが、その施設へのアクセスは2次的に扱われていないでしょうか。立派な文化ホールやスポーツ公園をつくっても、敷地内にバスの回転スペースがない。道路での乗降は交通の邪魔になる。これでは、市民の自由な利用を妨げていることになります。

イベントの輸送はバス事業からすると大した収入額にはなりません。公営企業の良さはそこにあります。“市民が縦横無尽に動きまわれるように”これが定住時代の積極的経営へむけた高槻市営バス事業のテーマです。

(代表取締役会長 みわ ひろし)



江村市長に答申書を渡す



高槻の市営バス

「第2回日米草の根交流サミット大会」
ボストン大会に参加して

小竹 暢隆

日米草の根交流サミット開催の経緯

1841(天保12)年、ジョン万次郎は先輩5人と漁に出て漂流し、鳥島に漂着しているところを米国の捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助された。船長のホイットフィールドは、14歳の万次郎を自宅に連れて帰り、語学、数学、測量術、航海術などを学ばせた。

1851(嘉永4)年、万次郎は鎖国下の日本に帰国し、その後まもなく米国の黒船が来航した。米国で得た知識を生かし、江戸幕府を助け、日本を開国に導いた。

ジョン万次郎とホイットフィールド船長の善意ある交流が、日米交流の基となったことを記念し、“Face to Face”の交流を続けていくことを目指し、そのような個人の集まりとして「ジョン万次郎の会」(会長：小沢一郎自民党元幹事長)が設立された。

このジョン万次郎の会から生まれた「日米草の根交流サミット」の第1回大会は、昨年(1991年11月)に京都で開催されたが、以降毎年日米交互に開催することになっている。

「草の根」は、英語でも“Grassroots”であり、日米草の根交流サミットは、日米両国の市民同士が地位や肩書はずして交流することを目指している。

ボストン大会概要

今回の第2回大会は9月17日から26日までの10日間、ボストン(マサチューセッツ州)を皮切りに、ミズーラ(モンタナ州)、キャスパー・イエローストーン(ワイオミング州)と続いて開催された。

ボストンでは、シェラトン・ホテルがメイン会場になっており、大会事務局も置かれている。18日は前夜祭があり、マサチューセッツ州立大学のキャンパスに隣接して建てられたケネディ・ライブラリで、ケネディ元大統領の長男のジョン・F・ケネディ・Jrも駆け付けて、カクテル・レセプションが催された。

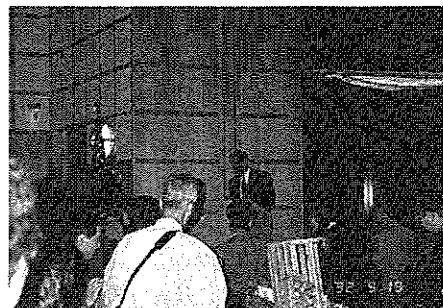
今回のメインテーマは「日米関係とグローバル・パートナーシップ」である。19日の全体会議では、松永信雄元駐米大使、ハーバード大学エズラ・ボーゲル教授、ハーバード・ビジネススクールのマイケル吉野教授らによるシンポジウムなどが行われた。

著名な講師ばかりであるが、分科会の講師を含め、すべてボランティアで謝礼は一切支払われていないという。

午後の分科会は、小部屋に分かれて、日米相互理解、女性のリーダーシップ、教育、環境、健康、ジョン万次郎、アメリカにおける日本語教育、生活様式と地域社会、芸術と文化、産業・経済、姉妹都市といった13のテーマで行われた。



日米交流レセプション



レセプションで挨拶するJ. F.ケネディ Jr.

分科会は、前半・後半で各1テーマを選択することになっており、「世界の環境問題と機会」と「アメリカにおけるバイオ産業の概観」に参加した。聴衆にも発言の機会が多く与えられ、その意味でも草の根交流の趣旨に適ったものといえる。

参加者の顔ぶれを見ると、ボストンのジャパン・ソサエティの関係者、日系企業の現地法人の社員、ボランティア・グループのメンバー、日本企業からの派遣社員、日本の国際交流団体、国家公務員、自治体職員などが多かったが、第1回の京都大会に続いてボストンにまで赴いた個人レベルでの参加者にも出会った。

名古屋開催に向けて

先般、外務省の関係者とジョン万次郎の会事務局長が、当名古屋事務所に来訪され、第3回サミットを是非名古屋で開催してほしいとの要請があった。

名古屋開催に当たっては、受け皿となる組織づくり、資金の確保など難題も多いが、名古屋J.Cが中心になり実現に向けて動き出したが、なんとか成功するように協力していきたい。

1993年11月13日に全体会議を予定しており、他にホームステイやオプショナル・ツアーなども盛り込まれることになる。草の根の精神からすれば、レセプションもディナー形式ではなく、“potluck party”（持ち寄り形式）などを取り入れていくことも検討されている。

サミットが、来年名古屋で実施されれば、再来年以降は京都と同様に「日米草の根キャラバン」という形で継続していくことになる。こうした草の根交流が、日米ばかりでなく世界の各地域へと展開されていくことを期待したい。

(名古屋事務所 おだけ のぶたか)

うまいもの通信⑫ 「野菜せんべいと名古屋弁」

小西 治子

名古屋の名物というと、きしめん・ういろうが一般的ですが、皆さんにあまり知られていないものに「野菜せんべい」があります。

御園座という劇場の西南角にある、うっかりすると見過ごしてしまいそうなお店、それが「秀松堂光榮」です。昭和5年秀松堂総本店より暖簾分けされ、創業60年余りになります。「野菜せんべい」は、さつま芋・蓮根・くわいの薄切りを焼き、砂糖をまぶした素朴なものです。香ばしく、懐かしい味がします。このせんべいはどれも一枚一枚手焼きで普通のせんべいの3倍の時間がかかります。

他にも今は懐かしい名古屋言葉「なも」を商品名にした「なもせんべい」、最近ではご存じ名古屋弁をもじった「ウ・みゃあニャアせいべい」等、常に新しい商品化に努力されています。その他変わったものでは、郷土研究家、芥子川律治さんの監修による名古屋弁番付表なる方言競をオリジナルの手ぬぐい、Tシャツに製作され、お店に置いてあります。劇場のそばということもあり、お客さんにも有名な方が多く、名古屋に来る折には必ず買っていかれるというほど隠れた名物です。

また、ここのお店ひとり娘さんは昔ながらの美しい名古屋弁を使う年配の方が集まってきた「名古屋弁を広める会」に入ってお

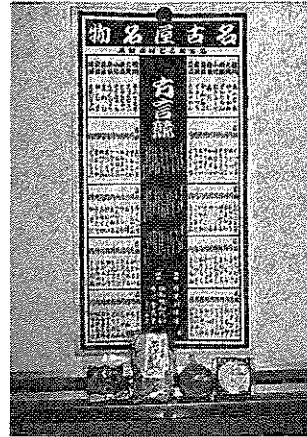


野菜せんべい

られ、フレッシュな会員として活躍されています。現在は、家業のかたわら県の文化財課による昔の名古屋弁を使っている人の保存ビデオの製作にたずさわり、名古屋弁継承に尽力されています。

名古屋弁はマスコミの影響で汚いというイメージが強くでてしまい、彼女自身も「方言の良さを伝えるために、名古屋弁をしゃべらなきゃいけないと思うのだけど、どうしても気恥ずかしい気持ちが先立ってしまう」と言っているほど、名古屋人というのは外の人に対しては意識的に名古屋弁を使わないようにしてしまいます。しかし、本来の名古屋弁は「なも」（共通語では「ね」ということ）「あそばせ」（二重尊敬）を語尾につけ、言葉尻がやわらかで、相手にゆったりとした感じを与えます。以前は三大美言葉（船場・京都・名古屋の言葉）の一つといわれるほどきれいな言葉だったのです。ただ残念なことにごのような名古屋弁をしゃべる人は時代の流れ、核家族化とともに年々少なくなってきています。小さなお店を守っていくのは大変だと思いますが、「40歳になったら、自信をもって名古屋弁をしゃべれるようになりたい」と最後に言われたように、名古屋弁とともに懐かしい名古屋の味も残していてもらいたいと願っています。

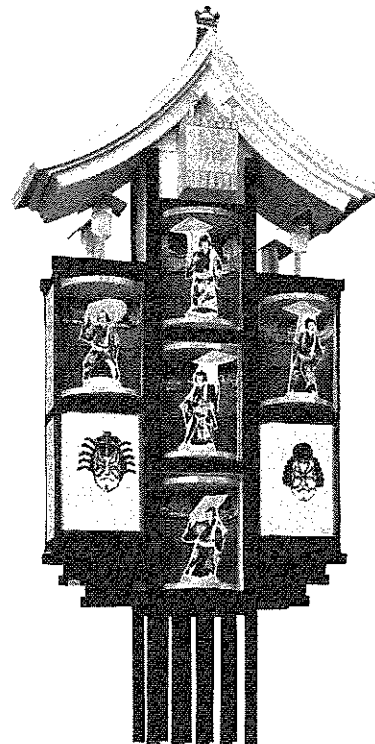
追録ですが、10月1日お店の前に日本で最初の台詞付からくり人形「白波五人男」が完成しました。稲瀬川勢揃いの場を日本駄右衛門・弁天小僧菊之助・忠信利平・赤星十三・南郷力丸なる人形が一人一人登場して台詞をしゃべるユニークなものです。10月は御園座の顔見世でもあり、記念式典のあと、仮設舞台で名古屋むすめ歌舞伎による「白波五人男」の公演、夕方には大都会で演ずる薪能が催されました。（名古屋事務所 こにし はるこ）



方言辞



売場の風景



からくり人形

新刊旧刊書評紹介

出版元 INFAS

雑誌名 STUDIO VOICE (月刊)

紹介者 木村 健

巷にあふれる情報誌…しかし最近では、単に買・食・住・職・遊というくりではなく、個人輸入やカタログ販売、B級グルメ、アウトドアレジャー、パーティガイド、中高年向き転職情報、新刊文庫案内…etc.と、情報雑誌の特化が進んでいる。それとともに、読み手の分化と、情報の選択的活用が必然的に行われている。膨大な情報のうちはたしてどれだけのものが役に立ち生き残っていくのだろうか。



とりあえず『多忙』は一つの幸福だと思います。何故なら、無意味な人生を考えなくて済むから。『多忙』はある種の快樂を生み、禁断症状をもたらします。人々は『多忙』を求め、生み出します。

「ああ、このまま銀幕の前で死んでもええわ」というような、『生きてて良かった状態』になる映画が、たまにあります。こんな、年に1～2回しか出会えないような映画に会うためには、とにかく数をこなす事なのですが、それなりの情報収集も必要です。

- ①人脈を駆使して情報を得る
- ②FM802のSunday sunset studio (お勧めシネマのコーナー)を聞く
- ③情報誌をチェックする

などが一般的ですが、ここでは、③について紹介します。

STUDIO VOICEは、“So fucking what!”な特集と演劇・美術・映画・音楽・建築評、ファッション・フォト、エッセイなどからなるマルチ・メディア・ミックスト・マガジンである。この手の雑誌は他にも多くあるが、「完読」するには小さすぎる字、不可解な特集ページをはじめとするラジカルさが気に入

ったためか、紙が良いので捨てるのがもったいないためか、アパートに大分たまってきている。また、バック・ナンバーを読むと過去の自分やその時の思考をフラッシュ・バックすることが出来る。

この本で取り上げられる映画評は、アート系の映画が多いのと、ほとんど自己満足の文章で難解である。そして、その多くは、東京公開を念頭において書かれているため、1～3ヵ月遅れて大阪や京都に来る場合が多い。これはと思って映画館に足を運ぶとつまらなかったりする。「やっぱ、映画は自分の体調次第やで。旨いもん食って帰ろ。」と、理解できなかったのは自分の側にあると言い訳する(裏切られる)パターンがほとんどである。

そして、雑誌を読むことで『多忙(クスリ)』を得て、雑誌の情報をもとに『多忙(クスリ)』に走る自分に気付く。「やっぱ、中原中也先生のように、昼まで寝て、夜まで歩いて、朝方まで読書するという怠惰な日々を送らないと、良い詩は書けないな～」と『怠惰』を決め込む今日この頃である。

「ウッ! クスリが切れてきた…」

(京都事務所 きむら たけし)

まちかど

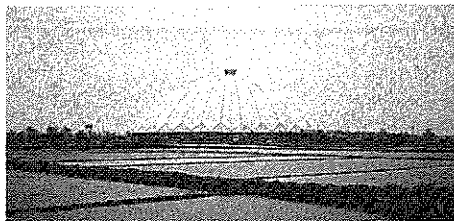
ドーム 2 題

伊坂 善明

この間、期せずして最近オープンしたドーム建築を2つ見る機会がありました。

出雲ドーム（島根県出雲市）は、世界最大の木造膜建築で、日本最大の木造建築でもあるそうです。構造は、「蛇の目傘」をイメージすればわかり易く、集材材による放射状のアーチに膜を張ったもので、大変シンプルで

（出雲ドーム）



田圃に立地。色と形が軽やか。



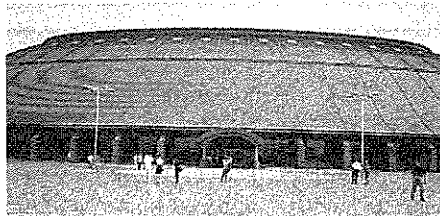
明るい内部、木造のあたたかみを感じさせる。

軽やかな印象です。内部は明るく、稼働式のスタンドにより、野球もできれば陸上競技、ラグビー、大規模イベントなどにも対応できます。

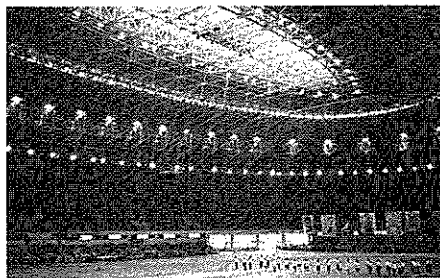
長浜ドーム（滋賀県長浜市）は、積雪地帯において、県民の健康づくりを目的としてつくられた県立の施設。鉄骨トラスにより楕円状に形づくられており、ガッシリした印象を受けます。県民向けの施設として、機能を限定しているのが特徴です。

（京都事務所 いさか よしあき）

（長浜ドーム）



重厚な外観、軒下には融雪溝が設けられている。



鉄骨のガッチリした印象。天窗により採光。

アルパック (株)地域計画 建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 社	〒600 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル6階)	TEL (075)221-5132(代)
京 都 事 務 所		FAX (075)256-1764
大 阪 事 務 所	〒540 大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OIBPプラザビル15階)	TEL (06) 942-5732(代)
		FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052)962-1224(代)
		FAX (052)962-1225
東 京 事 務 所	〒160 東京都新宿区新宿2-5-16 (霧ビル401号)	TEL (03)3226-9130(代)
		FAX (03)3226-9560
㈱九州地域計画 研 究 所	〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号 (白之出ビル6階)	TEL (092)731-7671(代)
		FAX (092)731-7673
㈱アルパックイン ターナショナル	〒540 大阪市中央区谷町1丁目5番7号 (ストークビル天満橋10階)	TEL (06) 943-7016
		FAX (06) 943-7026
㈱都市居住文化 研 究 所	〒604 京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階)	TEL (075)252-2231
		FAX (075)252-4417